

## マーケットの動き（2023年7月18日～7月21日）

先週の国内債券市場は、前週末比で金利はほぼ横ばいとなりました。日銀による長短金利操作の修正観測が高まる中、18日のG20（20カ国・地域）財務相・中央銀行総裁会議において植田日銀総裁が金融緩和継続を示唆したことから、長期金利は低下に傾いた一方、21日発表の6月全国CPI（消費者物価指数）でインフレ率の高止まりが意識されると、金利は前週末とほぼ同水準で週を終えました。クレジット市場は、引き続き堅調に推移しました。

## 投資環境見通し（2023年7月）

## 国内長期金利は上昇圧力がかかりやすい

日銀が早急に金融政策を修正するとの見方は後退しつつありますが、将来的な修正観測は残ることや、米国市場における追加利上げ観測に伴う金利上昇もあり、長期金利は上昇圧力がかかりやすいとみています。

	7月21日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（日本、%） （変動幅）	0.48	0.01	0.11	0.08	0.25
NOMURA-BPI総合 （騰落率）	373.72	0.19%	▲0.85%	1.66%	▲0.67%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

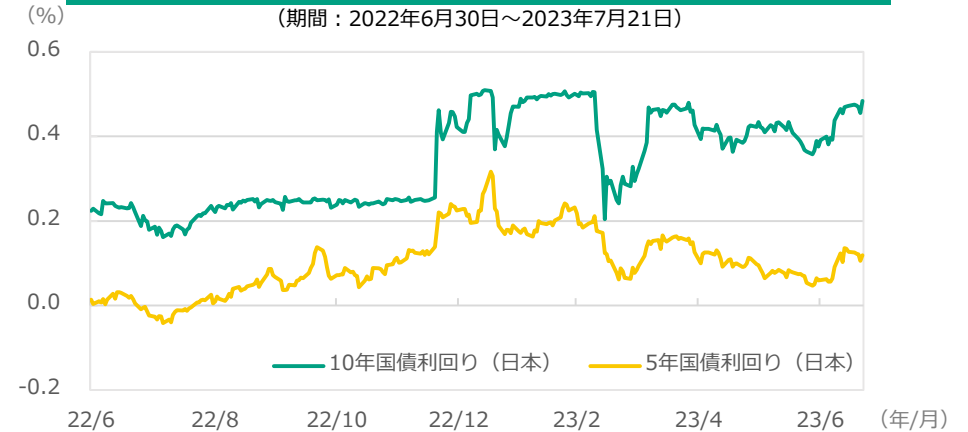
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

[https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload\\_pdf/202307\\_outlook.pdf](https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202307_outlook.pdf)

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

## 日本国債利回りの推移

（期間：2022年6月30日～2023年7月21日）



## NOMURA-BPI総合指数の推移

（期間：2022年6月30日～2023年7月21日）



※2022年6月30日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成